

公明党会派視察報告書

日 時	令和7年1月23日(木) 13時30分～15時00分	
視察先	埼玉県飯能市双柳1-1	
応対者	飯能市教育委員会 教育部 学校教育課 大澤章孝 指導主事 櫻井昇一 副参事兼教育センター所長	
テーマ	不登校支援「ステップアップルーム」の取り組みについて	

【ステップアップルームの設置に至った経緯について】

飯能市における不登校児童生徒の増加

令和4年度の長期欠席児童生徒の報告が199名、内53名が飯能第一中学校であり早急な支援が必要と判断し、ステップルームを立ち上げた。

各学校においても校内における居場所づくり、個に応じた支援また不登校児童生徒の保護者の支援としては、各学校や教育センターにおける面談の実施など寄り添った支援を進めている。

【ステップアップルームの運営体制と学校との連携について】

(運営体制)

- ・学校がある日（夏休みなどはなし）10時～ 利用者R6 13名 R5 17名
- ・設置に係る経費はなし（図書室の中で実施）
- ・運営に係る経費は人件費・時給1,116円、年間勤務日数115日 2名配置
- ・配置された支援員の資格等

現在、特別支援教育支援員を2名配置。資格条件は特にないが、教員経験がない方で受容的な姿勢がある方を配置している。（2名は女性）

(学校との運営体制)

利用している児童生徒の状況を定期的に行い、状況の共有を図っている。また、実際に訪問し、運営体制の改善に向けた状況確認や支援が必要な児童生徒についての支援体制の確認などを行っている。

更には要保護対策地域連絡協議会を軸に、福祉部局との連携、常に関係機関との報告・連絡・相談がとれる関係性を構築。教育部から学校教育課と教育センター、福祉部局からこども支援「生徒指導・教育相談に係る学校訪問」を行い、情報共有の場を設け、福祉部局で進めている居場所づくり「ゆあスペース」との連携（利用者の把握等）



【質疑応答】

質：市内小中学校の設置状況について

答：19校（小学校12中学校7）中7校が実施。支援員は第一中のみ 他はボランティアで対応

質：福祉や医療、フリースクール等との連携・協働の取り組みについて

答：カンファレンスやケース会議等で該当の不登校児童生徒の支援内容を検討しながら支援を進めている。福祉関係については、より教育関係や学校が連携が図られるよう福祉部局が主催する協議（障がい児部会等）や会議等に参加し、連携や協働がよりスムーズに進められる構築に努めている。

質：不登校対策チームの構成と取り組み内容について

答：令和5年度より実施している第1回不登校対策チーム研修会は各小中学校の校長・教頭・生徒指導主任・教育相談主任が一同に集まり研修会を開催している。

【事業の効果・所感】

成果については検討中であるが、支援員を実際に配置した飯能第一中学校のステップアップルームでは全体的に良い方向に動いている。生徒からは「この部屋があって、学校に来やすくなった」「担任の先生が優しく話をしてくれて、とても安心した」「クラスの中だと話せないけど、この部屋だと話せるんだ」といった声も聞く。今後も学校の現状把握に努めると同時に、利用している児童生徒からの声も積極的に聞き取り成果を確認していきたい（不登校支援は、数値では測れないものがある）

すべての不登校児童生徒の保護者が学校や教育センターと連携を図っている状況ではなく、実際にはどこにも相談できずにいる状態の保護者も多くいるのが現状である。

教育委員会の職員や校長先生の非常に熱い思いが伝わってきた。不登校になった要因に先生が苦手とあり威圧的な姿勢をやめてもらうことやステップアップルームに預けたからいいやではなく、生徒の様子を見に行つてほしいと繰り返し繰り返し担任の先生との連携をとっている。支援員には教員経験のない方・・・生徒に対して指図をしたり注意をしたりするのではなく見守りながら寄り添うことができる方が生徒たちには必要とのこと。子どもの人権を尊重していくには大人がどうかかわっていくことが大事なのか、改めて気づくことが多い視察内容だった。

【今後、愛川町にどのように反映していくのか】

本町においても、不登校児童生徒数は年々増加しており中学生の方が小学生に比べて不登校人数が多い。特に中学生は令和3年以降から急激に増加傾向、小学生は令和元年に前年の2倍に増加している。不登校の支援では相談指導教室「絆」や子育て支援「寺小屋くすくすの木」など様々実施しているが、その中の校内支援センターなどをより深みのある、今回のステップアップルームのように学校内での居場所として不登校支援への選択肢を作つてあげることは重要だと考える。支援員は予算がかかるが地域のボランティアで実施している学校もある。

本町においては外国籍も多いので、地域の実情も把握しながら不登校支援の更なる提案ができるよう努力したい。